

國學院大學学術情報リポジトリ

研究ノート 学生アスリートの文武両道に関する研究
: 野球部員の出身高校ランクを基にして

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 恩田, 哲也 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00002084

学生アスリートの文武両道に関する研究 ー野球部員の出身高校ランクを基にしてー

恩田 哲也

【要 旨】

本調査は、いわゆる文武両道という観点から、野球の名門とされる大学に所属する大学野球部員の出身高校の学力ランキングについて着目し検討考察を試みた。方法としては、2013年度大学野球春季リーグ戦の開幕時における、東京六大学リーグ、首都大学リーグ一部、東都大学リーグ一部のベンチ入りとして登録された全選手の出身高校を調べ、その学力ランクに照らし合わせた。そして各大学、リーグごとでまとめ、大学付属高校出身者にも着目し、比較検証を行った。

今回の調査では、一般的に学力レベルの高いと言われている大学野球部員の高校ランクは、他の大学野球部員の高校ランクと比べランクの中央値は低い傾向が窺える。よって野球部員の高校ランクもよいように思われる。しかし、付属生を除いた野球部に所属する学生の高校ランクは、学力レベルが高いと言われている大学と他大学とでは、その差は少ないような傾向を示した。その理由として、スポーツ推薦等の入学システムのある大学の野球部員の出身高校ランクは「高低」の幅が大きく、野球部員内で出身高校ランクの差が大きいことがあげられる。

本調査で行ったスポーツ推薦等によって入学及び入部した部員の出身高校ランクは一般的な大学ランクに少なからず影響を与えると考えられる。よって、アメリカ等で行われている大学あげての学生アスリートヘサポートシステムは有効な手段と考える。同時に、学校スポーツが競技スポーツの基になっている我が国においては、こういったシステムの構築は急務であろう。

【キーワード】

文武両道 学生アスリート 大学野球 高校ランク スポーツ推薦

1. はじめに

文武両道とは一般的に「文」とは文事、「武」とは武事のことをさし、その両方に努めていることを意味する。しかしながら、今日では文とは「勉学」、武とは「運動（スポーツ）」のことであり、その両面に秀でた人物に対して用いられることが多くなっている。現在、一般私立大学の多くはこうした文武両道を謳いながらも、学生を選抜する入学試験において、スポーツ推薦入学試験・スポーツ自己推薦入学・トップアスリート入学試験など、高校時代のスポーツ経験が特に考慮される入試形式を採用するところが多くみられる。その選考方法は高校時代のクラブ活動における競技成績が主なものであり、中には学力テストを行わないもの、小論文などの提出物がないものも存在する。

日本においてマスコミ報道などから、高校野球、特に通称、春夏の甲子園で活躍した選手の進路に多くの人々が注目し、「プロ入りか、大学進学か」で世間を騒がせることが多々ある。実際、そのような情報に関するウェブサイト¹⁾²⁾³⁾⁴⁾は複数あげられる。甲子園で注目を集めた選手には、野球ファンのみならず多くの人々が彼らの今後の競技人生に興味

を持つため、彼らの進路先に関する情報やマスコミ報道は、将来所属する組織の認知度を上げることにつながる。また、選手を受け入れる組織であるチームや大学としても、該当選手がスポーツ競技で良い成績を上げることは、試合結果や選手の活躍ぶりに関するマスコミ報道の機会を直接増やすことが期待できるものである。2013年、東北楽天ゴールデンイーグルスを優勝に導いた田中将大選手（駒大苫小牧高出身）は、2006年の甲子園で一躍注目を集め、高校卒業後はすぐにプロ入りしたのに対し、同年「ハンカチ王子」として人気を集めた斎藤佑樹選手（早稲田実業高出身）は早稲田大学に進学している。この両選手の進路について連日報道されていたことは記憶に新しい。

昨今、大学は経営を安定させるためにより多くの学生を集めることが求められる。学生募集をする上で、スポーツ競技におけるチームや所属選手の活躍は、大学の知名度を上げる結果となりうる。山田満⁵⁾によれば、東京一箱根間の往復200キロ余りを10人でつなぐ正月の箱根駅伝（東京箱根間往復大学駅伝競走）における、優勝した大学のマスコミでの広告宣伝価値は数十億円単位であると述べられている。

一方で、本来大学は主に学力選抜により入学が許される教育機関であるが、スポーツの競技成績を主とした選抜方法と一般入試による入学が許された学生とではなんらかの違いが生じると推測できる。佐藤の報告⁶⁾では、現在様々な方法の入試が採用されていることにより、入学してくる学生によっては、大学側もその学生たちの学力レベルについて把握すること無しに大学に入学してくると指摘し、又、入試形態の異なる学生との間に学力差が生じていることが述べられている。このような中で近年、早稲田大学が文武両道を実践させるために、アスリートプログラム（WAP）⁷⁾⁸⁾を始めた。そのプログラムは対象となる体育会所属の学生に、アスリートとしての教養プログラムの提供や修学支援を行うシステムである。

上記のような問題点やシステムの確立は、学校スポーツを基に競技スポーツが発展している我が国においては競技レベルの向上に不可欠なものであり、2020年に開催される東京オリンピックに向けても選手育成と強化につながるものであると考えられる。そこで、今回は文武両道という観点から、大学教育活動の一助となることを目的とし、野球の名門とされる大学に所属する選手の出身高校の学力ランキングについて現状を把握し、検討考察を試みた。

2. 調査対象・方法

「大学野球」週刊ベースボール増刊4・7号（出版：ベースボール・マガジン社、2013年3月29日発）、「春の首都大学野球」ガイドブックNo.98（出版：首都大学連盟、2013年4月発）を参考にして、上記の各大学野球部の2013年度春季リーグ戦において開幕時（2013年4月時点）でベンチ入メンバーとして登録された全選手（表-1）の出身高校を調べた。そして「高校学力ランキング」大手A予備校・2011年度版（非公開データ）に各選手の出

身高校をランク1～20に照らし合わせ、データ個数が30以下であり、突出した値の影響を避ける為に中央値と標準偏差を求めた。なお、高校ランクにおいては、ランクの数字が小さいほど、学力ランクが高いことを示している。また各リーグの全体中央値と標準偏差、更にリーグ全体の中央値と各大学の選手の高校ランクを比較して、大学ごとに中央値以上となる人数と中央値未満の人数を求めた。また、大学付属高校出身者（以下付属生）は大学入学形態が大きく異なる。そのため、各大学における付属生を全登録メンバーから除いた場合についても同様の比較を行った。

統計処理にはSPSSを用い、ノンパラメトリック検定を行い、そのランキングの比較、検証を行った。検定結果においては人数比に関する5%水準を基に差の有無を判定し、比較した大学間の人数比に関する有意差について分析検討した。

表－1 2013年春季リーグ登録選手人数

リーグ名	大学名	人数	リーグ名	大学名	人数	リーグ名	大学名	人数
東京 六大学	法政大学	29	首都大学 一部	東海大学	30	東都大学 一部	青山学院大学	29
	早稲田大学	29		帝京大学	30		亜細亜大学	29
	慶応義塾大学	29		筑波大学	30		中央大学	29
	明治大学	29		日本体育大学	30		駒澤大学	29
	立教大学	29		大東文化大学	30		國學院大學	29
	東京大学	29		城西大学	30		専修大学	29
	合計	174		合計	180		合計	174

3. 結果

表－2は東京六大学リーグにおける各大学の野球部員の高校ランクを表している。東京六大学リーグにおいて高校ランク中央値が最も小さかったのは慶応義塾大学で中央値1、標準偏差5.0、リーグ全体の中央値と比較して、中央値より高いランク23人、低いランク6人であった。次いで東京大学が中央値2、標準偏差1.2、登録選手29人全員がリーグ中央値より高い高校ランクであった。三番目が早稲田大学で中央値3、標準偏差5.1、中央値より高いランクが20人、低いランクが9人であった。逆に高校ランクの中央値が大きかったのは法政大学と明治大学であった。法政大学は中央値12、標準偏差4.4で、中央値より

表－2 東京六大学リーグ所属大学の高校ランク

大学名		法政	早稲田	慶応	明治	立教	東京	全体
対象部員数（人）		29	29	29	29	29	29	174
高校 ランク	中央値	12	3	1	12	9	2	6
	標準偏差	4.4	5.1	5	3.5	4.4	1.2	5.4
全体との 比較（人）	≤中央値	5	20	23	2	10	29	89
	>中央値	24	9	6	27	19	0	85

高いランクが5人、低いランクが24人で、明治大学は中央値12、標準偏差3.5、中央値より高いランクが2人、中央値より低いランクが27人であった。また、立教大学は中央値9、標準偏差4.4、中央値より高いランク10人、低かったランク19人であった。

表－3は首都大学リーグにおける各大学の野球部員の高校ランクを表している。高校ランクの中央値が最も小さかったのは筑波大学で中央値6、標準偏差4.0、リーグ全体の中央値と比較して中央値より高いランクが28人、中央値より低いランクが2人であった。次に、城西大学は中央値12、標準偏差3.2、中央値より高いランクが23人、中央値より低いランクが7人であり、三番目は大東文化大学で中央値12、標準偏差4.7、中央値より高いランク17人、低いランク13人であった。逆に中央値の高校ランクの低かったのは、東海大学、帝京大学、日本体育大学の三校であった。東海大学は中央値14、標準偏差4.2、中央値より高いランク12人、低いランク18人。帝京大学は中央値14、標準偏差3.1、中央値より高いランク12人、低いランク18人。日本体育大学は中央値14、標準偏差4.5、中央値より高いランク12人、低いランク18人であった。

表－3 首都大学リーグ所属大学の高校ランク

大学名		東海	帝京	筑波	日体	大東文化	城西	全体
対象部員数（人）		30	30	30	30	30	30	180
高校 ランク	中央値	14	14	6	14	12	12	13
	標準偏差	4.2	3.1	4	4.5	4.7	3.2	4.6
全体との 比較（人）	≤中央値	12	12	28	12	17	23	104
	>中央値	18	18	2	18	13	7	76

表－4は東都大学リーグにおける野球部部員の高校ランクを表している。高校ランクの中央値が最も小さかったのは青山学院大学と駒澤大学の二校であり、青山学院大学は中央値10、標準偏差4.6で、リーグ全体の中央値と比較して中央値より高いランクが19人、中央値より低いランクが10人であった。駒澤大学は中央値10、標準偏差4.6、中央値より高いランクが17人、中央値より低いランクが12人であった。次の亜細亜大学は中央値11、標準偏差4.6、中央値より高いランクが15人、中央値より低いランクが14人であった。逆に最も高校ランクの中央値が大きかったのが國學院大學で中央値14、標準偏差4.5、中央値より高いランクが12人、中央値より低いランクが17人であった。次に大きかったのが専修

表－4 東都大学リーグ所属大学の高校ランク

大学名		青山	亜細亜	中央	駒澤	國學院	専修	全体
対象部員数（人）		29	29	29	29	29	29	174
高校 ランク	中央値	10	11	12	10	14	12	12
	標準偏差	4.6	4.6	5	4.6	4.5	3.6	4.5
全体との 比較（人）	≥中央値	19	15	18	17	12	20	101
	<中央値	10	14	11	12	17	9	73

大学で中央値12、標準偏差3.6、中央値より高いランクが20人、中央値より低いランクが9人。三番目に大きかったのは中央大学で中央値12、標準偏差5.0、中央値より高いランクが18、中央値より低いランクが11人であった。

大学のリーグごとに比較すると東京六大学リーグが中央値6、標準偏差5.4、中央値より高いランクが89人、中央値より低いランクが85人であり、次いで東都大学リーグで中央値12、標準偏差4.5、中央値より高いランクが101人、中央値より低いランクが73人であった。首都大学リーグは中央値13、標準偏差4.6、中央値より高いランクが104、中央値より低いランクが76人であった。

表－5は東京六大学リーグにおいて付属生を除いた野球部員の高校ランクを表している。東京大学は付属生がいなかったため、中央値、標準偏差は表－1と同じである。高校ランクの中央値が最も小さかったのは東京大学で中央値2、標準偏差1.2で、付属生を除いた中央値を基準としても、登録選手29人全員がリーグ中央値より高い高校ランクであった。次いで、中央値が小さかったのは慶応義塾大学で中央値5、標準偏差5.4、中央値より高いランク8人、中央値より低いランク6人であった。三番目は早稲田大学で中央値6、標準偏差5.0、中央値より高いランク12人、低いランク8人であった。逆に中央値が最も大きかったのは明治大学で12、標準偏差3.6で、中央値より高いランク6人、中央値より低いランク21人であり、次いで大きかったのは法政大学で中央値11、標準偏差4.7、中央値より高いランク6人、中央値より低いランク19人であった。立教大学は中央値10、標準偏差4.5、中央値より高いランク10人、中央値より低いランク17人であった。

表－5 東京六大学リーグ所属大学の付属生を除いた高校ランク

大学名		法政	早稲田	慶応	明治	立教	東京	全体
対象部員数(人)		25	20	14	27	27	29	142
付属生の人数(人)		4	9	15	2	2	0	32
高校 ランク	中央値	11	6	5	12	10	2	7
	標準偏差	4.7	5	5.4	3.6	4.5	1.2	5.3
全体との 比較(人)	≤中央値	6	12	8	6	10	29	71
	>中央値	19	8	6	21	17	0	71

表－6は首都大学リーグにおいて付属生を除いた野球部員の高校ランクを表している。付属生がいなかった大学は帝京大学、筑波大学、大東文化大学、城西大学で中央値、標準偏差は表－3と同じである。高校ランクを示す中央値が最も小さかったのは筑波大学で中央値6、標準偏差4.0、リーグ全体の中央値と比較して中央値より高いランク28人、中央値より低いランク2人であった。次いで東海大学、城西大学、大東文化大学が並び中央値12、東海大学は標準偏差4.9、中央値より高いランク10人、中央値より低いランク6人で、城西大学は、標準偏差3.2、中央値より高いランク16人、中央値より低いランク14人で、大東文化大学は、標準偏差4.7、中央値より高いランク15人、中央値より低いランク15人

であった。逆に高校ランクを示す中央値が最も大きかったのは帝京大学、日本体育大学の二校であり、帝京大学は中央値14、標準偏差3.1、中央値より高いランク12人、中央値より低いランク21人であった。日本体育大学は中央値14、標準偏差4.5、中央値より高いランク9人、中央値より低いランク20人であった。

表－6 首都大学リーグ所属大学の付属生を除いた高校ランク

大学名		東海	帝京	筑波	日体	大東文化	城西	全体
対象部員数（人）		16	30	30	29	30	30	165
付属生の人数（人）		14	0	0	1	0	0	15
高校 ランク	中央値	12	14	6	14	12	12	12
	標準偏差	4.9	3.1	4	4.5	4.7	3.2	4.7
全体との 比較（人）	≤中央値	10	12	28	9	15	16	87
	>中央値	6	21	2	20	15	14	78

表－7は東都大学リーグにおいて付属生を除いた野球部員の高校ランクを表している。付属生がいなかった大学は亜細亜大学と中央大学で中央値、標準偏差は表－4と同じである。高校ランクの中央値が最も小さかったのは駒澤大学で中央値10、標準偏差4.4、リーグ全体の中央値と比較して中央値より高いランク17人、中央値より低いランク11人で、次に青山学院大学と亜細亜大学が並び中央値11、青山学院大学が標準偏差4.6、中央値より高いランク18人、中央値より低いランク10人で、亜細亜大学は、標準偏差4.6、中央値より高いランク15人、中央値より低いランク14人であった。最も中央値が大きかったのは國學院大學で中央値14、標準偏差4.6、中央値より高いランク11人、中央値より低いランク17人で、次に大きかった専修大学と中央大学で中央値12、専修大学は標準偏差3.5、中央値より高いランク19人、中央値より低いランク9人で、中央大学は、標準偏差5.0、中央値より高いランク18人、中央値より低いランク11人であった。

表－7 東都大学リーグ所属大学の付属生を除いた高校ランク

大学名		青山	亜細亜	中央	駒澤	國學院	専修	全体
対象部員数（人）		28	29	29	28	28	28	170
付属生の人数（人）		1	0	0	1	1	1	4
高校 ランク	中央値	11	11	12	10	14	12	12
	標準偏差	4.6	4.6	5	4.4	4.6	3.5	4.6
全体との 比較（人）	≥中央値	18	15	18	17	11	19	98
	<中央値	10	14	11	11	17	9	72

表－8は今回調査した全大学野球部員出身高校のランキングについて比較し統計的な差を判定した結果の一覧である。漸近有意確率が $P < 0.05$ を有意差ありとし、*印で示した。さらに $P < 0.01$ には**印を、 $P < 0.001$ には***印としている。比較した大学においては優位

(出身高校のランクが高かった場合) な方に○印、劣位 (出身高校のランクが低かった場合) な方に●印で示している。

表－8 全野球部有意差一覧

	法政	早稲	慶応	明治	立教	東京	東海	帝京	筑波	日体	大東	城西	青山	亜細	中央	駒沢	国学	専修
法政		***●	***●			***●		*○	**●									
早稲	***○			***○	**○		***○	***○	*○	***○	***○	***○	***○	***○	***○	***○	***○	***○
慶応	***○			***○	***○		***○	***○	**○	***○	***○	***○	***○	***○	***○	***○	***○	***○
明治		***●	***●		**●	***●		*○	***●									
立教		**●	**●	*○		***●	**○	***○		*○	**○	**○		*○			**○	*○
東京	***○			***○	***○		***○	***○	***○	***○	***○	***○	***○	***○	***○	***○	***○	***○
東海		***●	***●		**●	***●			***●				*●					
帝京	*●	***●	***●	**●	***●	***●			***●			*●	**●		**●	*●		**●
筑波	**○	*●	**●	***○		***●	***○	***○		***○	***○	***○	*○	***○	**○	**○	***○	***○
日体		***●	***●		**●	***●			***●				*●		*●			
大東		***●	***●		**●	***●			***●									
城西		***●	***●		**●	***●		*○	***●									
青山		***●	***●			***●	*○	**○	*●	*○								
亜細		***●	***●		**●	***●			***●									
中央		***●	***●			***●		*○	**●	*○								
駒沢		***●	***●			***●		*○	***●									
国学		***●	***●		**●	***●			***●									
専修		***●	***●		**●	***●		**○	***●									

リーグごとにみると、東京六大学リーグでは有意な差が認められたのが早稲田大学・慶應義塾大学・東京大学の3大学で他の3大学に対して優位であった。次いで立教大学が4大学に対して有意差が認められ、1大学に対して優位で3大学に対して劣位、法政大学は有意差が認められた3大学に対して劣位、明治大学も有意差が認められた4大学に対して劣位となった。次に首都大学リーグで最も多く有意な差が認められたのは筑波大学でリーグ内のすべての大学に対して優位であった。次に城西大学が2大学に対して有意差が認められ、1大学に対して優位、1大学に対して劣位、東海大学・大東文化大学・日本体育大学は1大学に対して有意差が認められ劣位、帝京大学は2大学に対して有意差が認められ両大学に対して劣位となった。東都大学リーグでは全ての大学間を比較しても有意差が認められなかった。

全体で見ると最も優位数が多かったのは、東京六大学野球リーグの早稲田大学・慶應義塾大学・東京大学の3大学が15大学に対して優位であった。反対に最も劣位数が多かったのは首都大学リーグの帝京大学で12大学に対して劣位であり、次いで日本体育大学が7大学に劣位で、東海大学が6大学に劣位であった。

表－9は今回調査した全大学野球部の付属生を除いたランキングについて比較し統計的な差を判定した結果の一覧である。リーグごとでは、東京六大学リーグは東京大学がすべての5大学に対して有意差が認められ、すべてに対して優位であった。次に早稲田大学が3大学に対して有意差が認められ、2大学に対して優位、1大学に対して劣位であった。

三番目に慶應義塾大学と立教大学が2大学に対して有意差が認められ、1大学に対して優位で1大学に対して劣位であった。法政大学は2大学に対して有意差が認められ、両大学に対して劣位、明治大学は4大学に対して有意差が認められ、すべて劣位となった。首都大学リーグでは筑波大学でリーグ内の大学すべてに対して有意な差が認められ、すべてが優位であった。次に東海大学と城西大学が2大学に対して有意差が認められ1大学に対して優位、1大学に対して劣位であり、日本体育大学と大東文化大学は1大学に対して有意差が認められ劣位であり、帝京大学は有意差が認められた3大学に対して劣位となった。東都大学リーグでは付属生を含んだ大学間の比較同様にすべての間に有意差が認められなかった。

表－9 全野球部（除付属生）有意差一覧

	法政	早稲	慶応	明治	立教	東京	東海	帝京	筑波	日体	大東	城西	青山	亜細	中央	駒沢	国学	専修
法政		*●				***●		*○	*●									
早稲	*○			*○		***●		***○		**○	*○	*○	*○	*○	*○	*○	**○	*○
慶応				*○		***●		***○		*○	*○	*○		*○		*○	*○	*○
明治		*●	*●		*●	***●		*○	***●									
立教				*○		***●		***○		*○	*○	*○		*○			*○	*○
東京	***○	***○	***○	***○	***○		***○	***○	***○	***○	***○	***○	***○	***○	***○	***○	***○	***○
東海						***●		*○	*●									
帝京	*●	***●	*●	*●	***●	***●	*●		***●			*●	*●		*●	*●		*●
筑波	*○			***○		***●	*○	***○		***○	***○	***○	*○	***○	*○	*○	***○	***○
日体		*●	*●		*●	***●			***●				*●		*●			
大東		*●	*●		*●	***●			***●									
城西		*●	*●		*●	***●		*○	***●									
青山		*●			***●			*○	*●	*○								
亜細		*●	*●		*●	***●			***●									
中央		*●			***●			*○	*●	*○								
駒沢		*●	*●		***●			*○	*●									
国学		***●	*●		*●	***●			***●									
専修		*●	*●		*●	***●		*○	***●									

全体を通じて付属生がいた大学は18大学中11大学であった。付属生を除いた場合では最も優位数が多かったのは東京六大学リーグの東京大学で他の17大学全てに対してであり、次いで首都大学リーグの筑波大学が13大学に対して、三番目が早稲田大学で優位数12大学であった。反対に最も劣位数が多かったのは首都大学リーグの帝京大学で13大学に対して劣位、次いで日本体育大学が7大学に劣位で、そして三番目が首都大学リーグの大東文化大学、東都大学リーグの亜細亜大学、國學院大學で、それぞれ5大学に対して劣位であった。

表－10は統計処理において有意差が認められた大学間の優位数と劣位数及び中央値を一覧にし、優位数多>劣位数少>中央値小の順に並べたものである。また表－11は大学付属高校出身者を除いた場合の一覧である。

一般的に学力レベルが高いと言われている大学は、他の大学と比べ優位数は多く、劣位数が少なく、中央値は低い。今回の調査で全体において大学間で最も上位に判定されたの

表－10 優位数・劣位数・中央値

		優位数	劣位数	中央値	S.D(±)
1	慶応	15	0	1	5
2	東京	15	0	2	1.2
3	早稲田	15	0	3	5.1
4	筑波	13	3	6	4
5	立教	9	3	9	4.4
6	青山	3	4	10	4.6
7	中央	2	4	12	5
8	駒澤	1	4	10	4.6
9	法政	1	4	12	4.4
10	明治	1	5	12	3.5
10	城西	1	5	12	3.2
10	専修	1	5	12	3.6
13	亜細亜	0	5	11	4.6
14	大東	0	5	12	4.7
15	國學院	0	5	14	4.5
16	東海	0	6	14	4.2
17	日体	0	7	14	4.5
18	帝京	0	12	14	3.1

表－11 除付属生：優位数・劣位数・中央値

		優位数	劣位数	中央値	S.D(±)
1	東京	17	0	2	
2	筑波	13	1	6	
3	早稲田	12	1	6	5
4	慶応	9	1	5	5.4
5	立教	8	1	10	4.5
6	青山	2	3	11	4.6
7	中央	2	3	12	
8	東海	1	2	12	4.9
9	法政	1	3	11	4.7
10	駒澤	1	4	10	4.4
11	明治	1	5	12	3.6
11	城西	1	5	12	
11	専修	1	5	12	3.5
14	亜細亜	0	5	11	
15	大東	0	5	12	
16	國學院	0	5	14	4.6
17	日体	0	7	14	4.5
18	帝京	0	13	14	

は慶応義塾大学であった。次いで東京大学、早稲田大学、筑波大学、立教大学が上位5大学となった。反対に劣位だったのは帝京大学で、次に日本体育大学、東海大学、國學院大學、大東文化大学が下位5大学であった。

大学付属高校出身者を除いた場合で最も上位だったのは東京大学であった。次いで筑波大学、早稲田大学、慶応義塾大学、立教大学が上位5大学となった。反対に最も劣位だったのは、帝京大学、日本体育大学の順で付属生を含む全体と同じ結果であり、次いで、國學院大學、大東文化大学、亜細亜大学が下位5大学であった。全体と付属生を除いた場合とで優位数・劣位数・中央値の変化が大きかったのは慶応義塾大学（優位数－6、劣位数＋1、中央値＋4）、早稲田大学（優位数－3、劣位数＋1、中央値＋3）、東海大学（優位数＋1、劣位数－4、中央値－2）、立教大学（優位数＋1、劣位数－2、中央値＋1）、青山学院大学（優位数－1、劣位数－1、中央値＋1）、であった。

4. 考察

本調査の結果から、付属生を除いた場合において、大学野球部員の出身高校学力ランクと一般的に言われている大学の学力レベルに差異が生じていると推測される。今回は野球部員を対象として調査を行ったが、このことは付属高校を持つ大学にとって、スポーツに限ったものではないものの、その付属高校の学力レベルが大学レベルにも影響を与える可能性があることを示唆している。その一方で、対象となった大学野球部員の出身高校ランクの高い大学（優位数が多くあった大学）は、同時に付属高校以外においても、ランクの高い高校からスポーツ優秀者が入学している傾向が窺える。反対に、東海大学のように付

属高校ランクが10より大きい（いわゆるランクが低い）大学は、付属高校以外の野球部員の出身高校ランクによる影響が大きいように思われる。但し、付属高校以外の出身高校ランクについて考察すると、ランクの高い大学においては特に、高校ランクを示す中央値が上がり、標準偏差が大きくなっている。このことは、昨今大学入試にあるようなスポーツ推薦等によって入学及び入部した部員の出身高校ランクの影響によるとも考えることができる。

アメリカでは、1970～1980年代にかけて大学スポーツ選手の暴力事件や非行が社会問題に発展した経緯があり、各大学は競技偏重を見直して学業とのバランスを重視する傾向がみられる⁹⁾。NCAA（全米大学体育協会）等の組織的規制により、成績不良者は所属するスポーツクラブの試合等に出場ができなくなることのみが注目されるが、実際は大学の中で学生アスリートが競技活動に支障をきたさないよう、各大学でサポートするシステムを構築している。それは、履修計画や履修アドバイス、学習サポート、生活面のアドバイス等、将来的な視野を含めてのサポートシステムになっている¹⁰⁾。このようなサポートシステムに対外的な評価に関して、米NFLベンガルズ元ヘッドコーチは新聞記事⁹⁾の中で「全米でも優秀な大学で知られるようになった。実社会で通用する優秀なリーダーも輩出されるようになった」と述べており、プロ野球球団阪神タイガース所属のマット・マー-ton選手は自分の出身大学に関して「人生でスポーツをできる期間は限られている。教育を受けていればより良い経験ができ、多くの可能性の道を開いてくれます。それができる大学でした」¹¹⁾と述べている。

日本においては、体育の専門学部を持たない山梨学院大学は、2004年には大学学習支援システムS.S.A（Study Support for Athletics）をもうけ、学生アドバイザー等による学生アスリートへの学習サポートを行い、それらの成果として学生アスリートの単位取得率が上がったといわれている¹⁰⁾。同様なシステムとして、冒頭でも述べたが早稲田大学が2014年4月よりスポーツクラブに所属する約2400人を対象として、“早稲田アスリートプログラム（WAP）”と称して、人間的成長を目的とし、基準単位を下回った場合の練習及び試合の出場停止等の規定のみならず、学習面を支援する制度を設け、単位取得の指導を進めることを発表した⁷⁾⁸⁾。又、関西では、大学スポーツは勝利至上主義の弊害に触れ、新たな価値観を生み出すことを目的として、立命館大学、関西大学、関西学院大学、同志社大学、龍谷大学の5大学が協力しながら、文武両道を実践する学生を育てる構想が上がっている⁹⁾。

少子化により大学の経営自体が脅かされる時代となり、学生アスリートの活躍は、対外的には大きな学校の宣伝効果を得るものであり、学内においても学生のみならず教職員を含め活気を与える起爆剤となりうるものと考ええる。しかしながら、本来このような学生アスリートが大学時代の一過性のものでなく、社会でも優秀な人材として活躍できるように育成することが高等教育機関としての大学本来の役割であろう。そのような点を踏まえ、本調査で行ったスポーツ推薦等によって入学及び入部した部員の出身高校ランクは一般的

な大学ランクに少なからず影響を与えるものであると推測される。

但し、今回の調査で用いた学力ランクについては、進学コース、スポーツコース等の分割化されている高校の詳細については、総合的なランクとしてしか示されておらず、単に高校学力ランクが今回の場合順位づけに相応しているかは、再度考慮する必要がある。また同時に、継続研究として、スポーツ推薦等で入学した大学運動部員がたどる、卒業までの経緯等も触れる必要があると考える。

5. まとめ

現在の一般私立大学の入試の方法はAO（アドミッションズ・オフィス）入試、スポーツ推薦入試、一般入試など多様化している。特にスポーツにおいては、学生スポーツが大学の宣伝媒体となりうることから、高校時代の競技成績を重んじ入学を許可する大学もある。しかしながら、それによって、スポーツ推薦入学者と一般入試で入学してくる学生との間に何らかの差が生じているのではないかと考えられる。そこで、今回は文武両道という観点から、大学教育活動の一助となることを目的とし、野球の名門とされる大学に所属する選手の出身高校の学力ランキングについて現状を把握し、検討考察を試みた。

方法としては、2013年度春季リーグ戦において開幕時（2013年4月時点）で東京六大学、首都大学一部、東都大学リーグ一部のベンチ入りとして登録された全選手の出身高校を調べ、ランク1～20に照らし合わせた。そして各大学、各リーグでまとめ、更に大学付属高校出身者にも着目し、比較検証を行った。

今回の調査で野球部員の出身高校ランクが上位だったのは東京六大学リーグの慶応義塾大学で優位数15、中央値1、次いで東京大学で優位数は同じく15、中央値2、三番目は早稲田大学で優位数15、中央値3であった。反対に下位だったのは首都大学リーグの帝京大学、日本体育大学、東海大学の優位数0、中央値14であった。リーグごとに比較すると東京六大学リーグの全体中央値が6で首都大学リーグが13、東都大学リーグが12となった。

付属生がいた大学は11大学あり、その付属高校出身野球部員を除いた結果での出身高校ランクが上位だったのは東京六大学リーグの東京大学で優位数17、中央値2、次いで首都大学リーグの筑波大学が優位数13、中央値6、三番目が早稲田大学で優位数12、中央値6であった。反対に下位だったのは首都大学リーグの帝京大学、日本体育大学と東都大学リーグの國學院大學の順で優位数0、中央値14であった。また、付属を含んだ全体での順位が下位であった東海大学は、付属生を除くと優位数が0から1へ、中央値が14から12となり順位が上がった。

付属生を除いた大学のリーグごとの比較では、東京六大学リーグの全体中央値が6で、首都大学リーグは中央値12、東都大学リーグは変わらず12となった。

一般的に学力レベルの高いと言われている大学は、他の大学と比べ部員の出身高校ランクは高く中央値は低くなると推察される。しかし、付属生を除いた野球部に所属する学生

をみると、学力レベルが高いと言われている大学と他大学とでは、部員の出身高校のランクでの差は少ないような傾向が窺える。理由として、特に推薦等の入学システムのある大学の野球部員の出身高校ランクは「高い」「低い」での幅があり、野球部員内で出身高校ランクの差が大きいことがあげられるのではないだろうか。

引用・参考文献

- 1) 「プロ野球ドラフト会議」(2013.12) <http://www.npb.or.jp/draft/>
- 2) 「伝説のプレイヤー」(2013.12) [http:// 1st.geocities.jp/dogyamanet/col/column_4_nensaito.htm](http://1st.geocities.jp/dogyamanet/col/column_4_nensaito.htm)
- 3) 「ドラフト会議情報局2013」(2013.12) http://draft.liblo.jp/archives/cat_90624.html
- 4) 「ドラフト会議ホームページ2013」(2013.12) <http://draft-kaigi.jp/>
- 5) 山田満 (2010), 本学箱根駅伝のメディア露出の計測と広告換算－2007年～2009年の推移－, 順天堂スポーツ健康科学研究, 第1巻, 第4号(通巻16号), pp508～516.
- 6) 佐藤美津子 (2012), 大学入試の多様化と学力格差：4年制私立大学を中心に, 多摩大学グローバルスタディーズ学部(タマダイガクグローバルスタディーガクブ), VOL3, PP81～92.
- 7) 日本経済新聞 朝刊 (2014.5.5), 早大運動部の文武両道支援.
- 8) 毎日新聞 朝刊 (2014.4.7), 早大：運動部に文武両道「アスリートプログラム」.
- 9) 東奥日報 (2014.5.1), Web 東奥「特集スクランブル」文武両道へ学業支援／変わる大学スポーツの環境, <http://www.toonippo.co.jp/>
- 10) 木内敦詞、奈良雅之、島本好平、山口幸生、長倉富貴 (2012.11), 学生アスリートのライフスキルと学業, 大学教育学会誌, 第34号, 第2巻, pp77～81,
- 11) 朝日新聞デジタル (2014.9.12), 阪神マートン「競技だけが人生じゃない」文武両道促す, <http://www.asahi.com/>